

# 令和5年6月定期総会 議事に関する説明

特定非営利活動法人 産学連携学会  
会長 石塚悟史



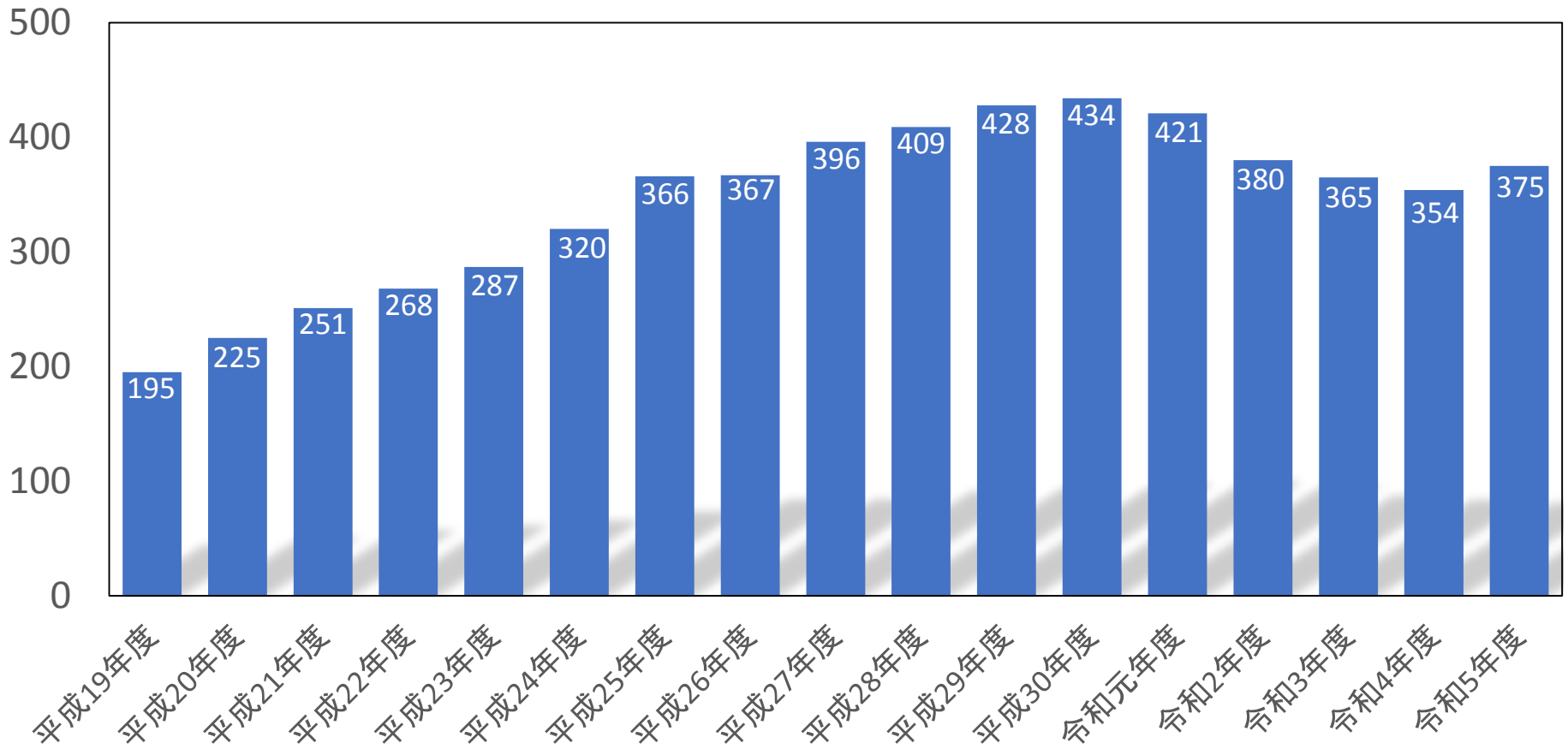
# 第10期運営の基本

## 『新しい価値の創生』

(学会員のための学会)

⇒ 原点に立ち、会員のための学会

# 会員数推移



会員数は微増となりました

# 1. 学会誌, 研究大会の充実

1. **大会の開催**: 令和4年6月23日~24日の日程で第20回大会(熊本大会)を熊本市民会館シアーズホーム夢ホールにて開催した(参加者数240名、発表件数84件)
2. **学会誌の発行**: 学会誌「産学連携学」第18巻第2号を令和4年6月30日に、第19巻第1号を令和4年12月31日に発行した(第18巻第2号より電子化)
3. **シンポジウムの開催**: 令和5年3月17日に「産学連携学会 2021年度シンポジウムーアントレプレナーシップが実現する社会課題解決型イノベーションー大学発ベンチャーが興す新事業(医療・モビリティ・フードテック・脱炭素等)創出」をオンラインにて開催した(参加者:380名)
4. **海外学会との交流**: 令和5年3月21日に米沢市置賜文化ホール「伝国の杜」及びオンラインにて「第6回日韓ワークショップ プレワークショップ in Yamagata」を開催した

## II. 支部・研究会活動の活性化

### 各支部活動

- 1. 北海道支部:**「第8回東日本リエゾンカンファレンス」の開催(令和4年4月28日:オンライン開催、東北・北関東支部との共催)、「令和4年度第11回道内4高専・道総研工業試験場・北海道科学大学研究交流会」の後援と開催協力(令和4年12月22日:オンライン開催)、「リエゾン交流セミナー」の開催(第1回:令和4年11月21日、第2回令和5年1月18日、第3回令和5年3月24日、いずれもオンライン開催)
- 2. 東北・北関東支部:**「第8回東日本リエゾンカンファレンス」の開催(令和4年4月28日:オンライン開催、北海道支部との共催)、「研究会～産学官連携における仕組みの在り方を考える～」の開催(令和5年3月24日:群馬大学桐生キャンパス)
- 3. 中部・北陸支部:**支部活動に関する検討
- 4. 関西・中四国支部:**「第14回研究・事例発表会」の開催(令和4年12月1日、2日:京都リサーチパーク)(発表:21件、参加者:44名)
- 5. 九州支部:**セミナー産学連携ネットワーク会議「最新世界半導体技術・産業の動向」の開催(令和5年3月15日:オンライン開催、参加者36名)

# II. 支部・研究会活動の活性化

## 研究会活動

1. **オープンイノベーション研究会**: シンポジウムの開催支援(令和5年3月17日)
2. **リサーチ・アドミニストレーション研究会**: 産学連携学会第20回大会オーガナイズドセッション「若手研究者に必要な支援の在り方～産学連携を経験する意義は?～」(令和4年6月23日:熊本市民会館)、および地域社会実装研究会・RA研究会 合同研究会/交流会(令和4年11月22日:オンライン)の開催
3. **地域社会実装研究会**: 第8回研究会「メタバースの現状と社会実装」(令和4年8月22日:オンライン、参加者14名)、第9回はRA研究会との合同研究会として「産学連携学会の今後の展望」(令和4年11月22日:オンライン、参加者16名)、第10回研究会「公立大学の地域連携について」(令和5年3月1日:オンライン、参加者12名)をそれぞれ開催
4. **ESD研究会**: 研究会活動の検討
5. **行動経済・社会システム研究会**: 産学連携学会第20回での発表「地域産学官連携を「ヒト」の観点から解き明かす」、研究会活動の紹介(産学連携ジャーナルVol.19 No.2)、研究会会合10回(4月14日、5月12日、7月14日、8月17日、9月14日、10月26日、12月14日、1月11日、2月8日:オンライン、3月8,9日はリアル会合)、サントリー文化財団研究助成への申請
6. **日韓比較研究会**: 第6回日韓ワークショップ プレワークショップ in Yamagata「日韓それぞれの産学官連携イノベーションの動向」をハイブリッド開催(令和5年3月21日:米沢市置賜文化ホール)

### III. その他の活動

1. **ニュースレターの発行**: 今後のニュースレターの電子化について検討した
2. **メールニュースの発行**: 第1151号～第1245号発行(95回)
3. **各種イベントや展示会での出展**: 「アグリビジネス創出フェア2022」への出展(令和4年10月28日: 東京ビッグサイト)
4. **共催事業**: 該当なし
5. **後援事業**:
  - ・「輸出管理 DAY for ACADEMIA2022」(輸出管理 DAY for ACADEMIA実行委員会主催、令和4年8月5日: 上智大学)
  - ・「アグリビジネス創出フェア2022(農林水産省主催、令和4年10月26日～28日: 東京ビッグサイト)」
  - ・「第22回ビジネスフェア～持続可能な未来へ～」(西武信用金庫主催、令和4年11月15日: 渋谷ヒカリエ)

# 令和4年度 活動計算書

特定非営利活動法人 産学連携学会  
(単位:円)

科 目	金 額	小計・合計
<b>[A] 経常収益</b>		
1 受取会費		5,010,200
入会金	167,000	
年会費	4,843,200	
2 受取寄附金		1,224,120
受取寄附金	1,224,120	
3 受取助成金等		200,000
雑収入	200,000	
雑収入: 第20回大会(熊本大会): 観光コンベンション協会からの助成		
4 事業収益		1,591,300
研究事業収益	1,054,550	
啓発事業収益	360,750	
講演・研修事業収益	176,000	
5 その他の収益		45
受取利息	45	
<b>経常収益計</b>		<b>8,025,665</b>
<b>[B] 経常費用</b>		
1 事業費		577,703
(1) 人件費		305,353
謝金	305,353	
雑給	272,350	
雑給: 第20回大会(熊本大会): スタッフ謝礼		
(2) その他経費		3,533,844
消耗品費	31,662	
リース料	4,125	
旅費交通費	16,190	
通信費	31,868	
支払手数料	1,249,345	
会議費	44,928	
外注費	444,220	
印刷費	700,126	
会場費	877,880	
情報交換会費	133,500	
支払手数料: 電子書籍サービス利用料、第20回大会WEBシステム利用料等		
外注費: 第20回大会会場設営費(コロナ対応のための会場設営を業者に依頼)		
<b>事業費計</b>		<b>4,111,547</b>
2 管理費		0
(1) 人件費		0
(2) その他経費		3,569,667
事務用品費	1,036	
消耗品費	21,010	
租税公課	600	
減価償却費	13,620	
通信費	321,884	
支払手数料	117,453	
外注費	3,094,064	
<b>管理費計</b>		<b>3,569,667</b>
<b>経常費用計</b>		<b>7,681,214</b>
<b>当期経常増減額 [A] - [B] ...①</b>		<b>344,451</b>
<b>[C] 経常外収益</b>		
固定資産売却益		
過年度損益修正益		
<b>経常外収益計</b>		<b>0</b>
<b>[D] 経常外費用</b>		
固定資産売却損		
災害損失		
過年度損益修正損		
<b>経常外費用計</b>		<b>0</b>
<b>当期経常外増減額 [C] - [D] ...②</b>		<b>0</b>
<b>税引前当期正味財産増減額 ①+② ...③</b>		<b>344,451</b>
法人税、住民税及び事業税 ...④		
前期繰越正味財産額 ...⑤	4,093,720	
<b>次期繰越正味財産額 ③-④+⑤</b>		<b>4,438,171</b>

# 第2号議案: 令和4年度決算報告

## 2021年度と2022年度の活動計算書の比較

年度	2021年度	2022年度
<b>[A] 経常収益計</b>	7,200,086	8,025,665
<b>[B] 経常費用計のうち事業費計</b>	3,582,397	4,111,547
<b>[B] 経常費用計</b>	7,116,091	7,681,214
<b>次期繰越正味財産額</b>	4,093,720	4,438,171

## 活動計算書項目比較

(単位:円)

年度	2021年度	2022年度	備考
<b>I 経常収益</b>			
大会、総会等	研究事業 1,475,000	2,478,670	受取寄附金 2021年度: 800,000 2022年度: 1,224,120
学会誌等	啓発事業 894,750	360,750	
支部、研究会、シンポジウム等	講演事業 32,500	176,000	
管理部門	4,797,836	5,010,245	年会費 2021年度: 4,648,800 2022年度: 4,843,200 入会金 2021年度: 149,000 2022年度: 167,000
<b>II 経常費用</b>			
研究事業	1,550,813	2,526,295	
啓発事業	1,900,400	1,033,028	印刷費 2021年度: 1,733,884 2022年度: 625,110
講演事業	131,184	552,224	
管理部門	3,533,694	3,569,667	事務局委託費 2021年度: 3,094,064 2022年度: 3,094,064

## 事業毎の各期の経常増減額 (単位:円)

	2021年度	2022年度	備考
研究事業	-75,813	-47,625	
啓発事業	-1,005,650	-672,278	学会誌の電子化
講演事業	-98,684	-376,224	
管理部門	1,264,142	1,440,578	
<b>経常増減額</b>	<b>83,995</b>	<b>344,451</b>	当期も何とかプラス。HPリニューアルが必要。

○2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、大会の開催をリアルで行われ、事業規模は増大。

○学会誌、入門書の電子化により、印刷費は削減。

○会費収入は減少傾向から若干増加傾向に。学会の在り方についての議論も進め、新たな研究会などの活動により、会員増強を更に進める必要がある。

令和4年度は単年度収支で344,451円の黒字となりました



## 第3号議案：令和5年度事業計画

1. **大会の開催**:第21回大会(高知大会)を6月12日～13日に開催
2. **学会誌の発行**:「産学連携学」を年2回発行(電子版)
3. **産学連携学入門の改訂版の検討**:電子書籍検討委員会を設置
4. **学会HPのリニューアルを検討**
5. **秋季シンポジウムの開催**
6. **韓国の産学協力学会との連携強化**:コロナウィルスの影響を考慮し交流事業を検討
7. **ニュースレターの発行**:発行内容及び電子化を検討
8. **メールニュースの発行**:随時

## 9. 支部活動の強化:

- ・北海道支部: 東北・北関東支部と連携した東日本リエゾンカンファレンスを開催、産学官連携交流のためのセミナー等の開催、支部HP 運用
- ・東北・北関東支部: 北海道支部と連携した東日本リエゾンカンファレンスを開催、他地域とのイベントも実施を検討
- ・中部・北陸支部: 幹事会の開催、セミナーもしくはイベントを実施予定
- ・関西・中四国支部: 令和5年12月頃に第15回研究・事例発表会を開催する予定(場所: 未定)に加え、幹事会(令和5年12月、令和6年3月)の開催を予定
- ・九州支部: 産学連携ネットワーク会議および幹事会の開催を予定

## 10. 研究会活動の強化:

- ・オープンイノベーション研究会:シンポジウムの開催支援及び連続セミナーの開催を予定
- ・リサーチ・アドミニストレーション研究会:全国大会におけるオーガナイズドセッション(令和5年6月13日)および研究会(令和5年12月、もしくは令和6年2月ごろ:オンライン)を開催予定、研究会幹事会(令和6年2月予定)の開催
- ・地域社会実装研究会:研究会(3回程度)の開催
- ・ESD研究会:研究会の開催(オンライン)
- ・行動経済学・社会システム研究会:月例会合の開催(オンライン)、現地調査や対人インタビュー等のフィールド活動の実施を予定
- ・日韓比較研究会:韓国産学協力学会とオンライン会議等による連携強化、日韓ワークショップの開催を予定(令和5年度秋頃:山形県山形市)
- ・地域連携教育研究会:研究会(4回:基本オンラインうち1回はリアル)の開催、全国大会での発表

## 11. 支部・研究会活動の強化:各種イベントや展示会での出展

# 第4号議案：令和5年度事業予算計画

## 令和5年度「特定非営利活動に係る事業会計」予算書

科目		金額（単位：円）	
<b>収入</b>			
1. 会費収入			
会費	4,900,000		
入会金	150,000	5,050,000	
2. 事業収入			
研究事業	4,000,000		
啓発事業	300,000		
講演事業	200,000	4,500,000	
当期収入合計 (A)			9,550,000
<b>支出</b>			
事業費			
研究事業	4,000,000		
啓発事業	1,430,000		
講演事業	550,000	5,980,000	
管理費			
事務局委託料	3,090,000		
通信費	340,000		
支払手数料	120,000		
減価償却	20,000	3,570,000	
当期支出合計 (B)			9,550,000
当期収支差額 (A) - (B)			0
前期繰越収支差額 (C)			4,438,171
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)			4,438,171

令和4年度の実績をベースとした収入見込み。協賛制度の充実とともに、会員増加を図る。

リアルとリモートでの支部、研究会活動を推進し、収入増を目指す。

研究大会(高知)の開催。論文誌、産学連携学入門の電子出版。HPリニューアル。

事務局委託費。デジタル化に伴うリモート会議やセミナー等の開催に必要な契約費用を計上。

産学連携学入門改訂(電子書籍)の検討。

## 第5号議案：役員改選

任期満了（令和5年6月30日）に伴い、以下の通り役員を改選する。

会 長：石塚悟史（高知大学）

副会長：飯田香緒里（東京医科歯科大学）、伊藤慎一（秋田大学）、  
緒方智成（熊本大学）、北村寿宏（島根大学）、菅万希子（関西医療大学）

理 事：秋丸國廣（愛媛大学）、内島典子（北見工業大学）、  
江田英雄（光産業創成大学院大学）、小野浩幸（山形大学）、  
川名優孝（東海大学）、  
宜保友理子（（株）慶應イノベーション・イニシアティブ）、  
木村尚仁（北海道科学大学）、殿岡裕樹（琉球大学）、  
中田泰子（北陸先端科学技術大学院大学）、永富太一（香川大学）、  
J. Radhakrishnan Nair（P&G イノベーション合同会社）、  
馬場大輔（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）、  
馬場智巖（学園前法律事務所）、松本毅（（一社）Japan Innovation Network）、  
山下篤也（国立研究開発法人科学技術振興機構）、  
矢野卓真（名古屋工業大学）、山本一枝（（株）ウェザーコック）、  
吉用武史（高知大学）

監 事：木村雅和（静岡大学・静岡理工科大学）、林聖子（亜細亜大学）

事務局長：飯田香緒里（東京医科歯科大学）

## 第6号議案：令和5年度表彰者

業績賞：該当なし

論文賞：該当なし

功労賞：

岡崎 綾子（帝塚山大学） 氏

特別賞：該当なし

<推薦理由>

岡崎綾子氏は、産学連携学会地域社会実装研究会設置当初より当研究会の活動支援を多方面から持続的に支えてきた。産学連携学会研究会の活動資源は限られており、活動の幅を広げることに工夫が必要である。岡崎氏は、設置時に、ウェブサイト作成方法を学びながら、費用負担がない形式での研究会のウェブサイトを自ら立ち上げ、現在も管理を行っている。研究会の名簿管理もしており、開催時の案内や、新しい参加者の名簿追加、開催時の過去参加者への案内、参加申し込みの受付の仕組み構築と受付業務、開催に際しては、講師やゲストスピーカーとの連絡、ニュースレター配布手続き、現地開催の場合は会場の手配、受付業務、設営など、多岐にわたる研究会活動を目立たない部分で支え続けてきた。この支えがあって研究会活動が活発に行えたといつて過言ではない。

岡崎氏は、研究者ではなく、大学の事務職員である。研究者は学会への参加は業務の一環として認められているが、産学連携部門以外に所属する大学事務職員が学会に参加することは私的な活動となり、参加している数も多くない。岡崎氏は、大学の地域連携活動の重要性を鑑み、産学連携学会の活動に関心をもった。活動を支える中で研究会に出席する機会を得ることで、産学連携学を学ぼうとする姿勢は嘆称されるものである。産学連携活動は、産学連携部門だけではなく、大学全体からの理解と支援を得ていく必要がある。立場を超えた学びに対する真摯な姿勢と、長期にわたり見えないところで活発な研究会活動を支えてきたことは、今後の産学連携学会の新しい一つの方向性への展開を示唆するものであることから、学会全体に功労賞に値すると考え推薦する。

## 【令和4年度役員】(令和5年6月26日時点)

会長：石塚悟史（高知大学）

副会長：飯田香緒里（東京医科歯科大学）、伊藤慎一（秋田大学）、  
緒方智成（熊本大学）、北村寿宏（島根大学）、菅万希子（関西医療大学）

理事：内島典子（北見工業大学）、内山大史（弘前大学）、  
江田英雄（光産業創成大学院大学）、小野浩幸（山形大学）、  
川名優孝（東海大学）、  
宜保友理子（（株）慶應イノベーション・イニシアティブ）、  
木村尚仁（北海道科学大学）、木村雅和（静岡大学・静岡理工科大学）、  
佐藤喜一（国立研究開発法人科学技術振興機構）、永富太一（香川大学）、  
J. Radhakrishnan Nair（P&G イノベーション合同会社）、  
馬場大輔（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）、  
松平竹央（知財経営研究社）、松本毅（（一社）Japan Innovation Network）、  
矢野卓真（名古屋工業大学）、山本一枝（（株）ウエザーコック）、  
吉用武史（高知大学）

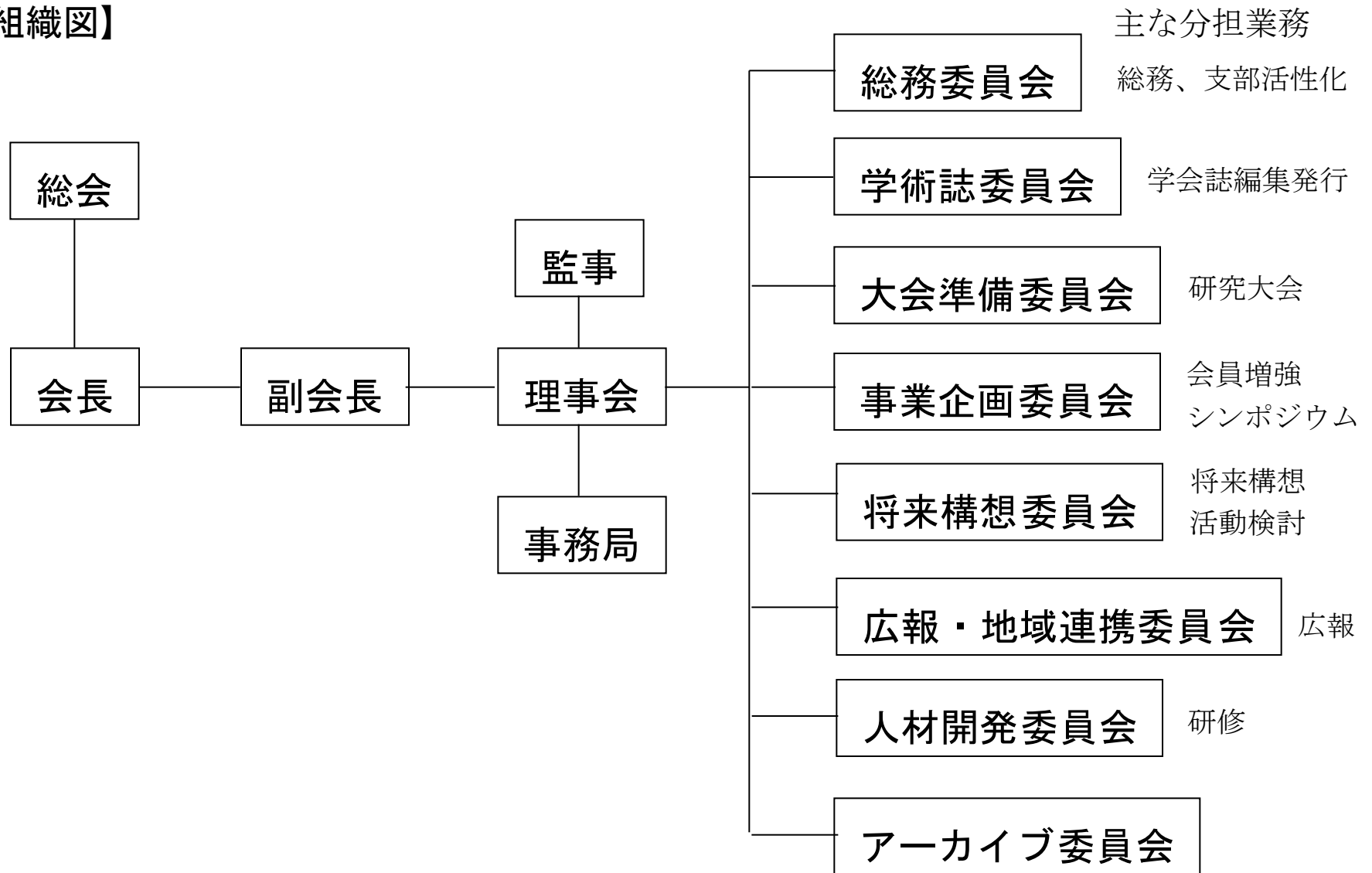
監事：網屋毅之（元宇都宮大学）、林聖子（亜細亜大学）

理事 23名

監事 2名

事務局長：飯田香緒里（東京医科歯科大学）

【組織図】





# 産学連携学会 第22回大会【愛媛大会】

会期：2023年6～7月の2日間

会場：愛媛大学内

もしくは松山市中心街

ありがとうございました